

とくむかん しじき そうなんきねんひ
特務艦「志自岐」遭難記念碑

分類：有形文化財

町選定文化財

記念碑は、大正8年8月におきた遭難事故の悲惨さを伝え、沈没した志自岐乗組員の御霊を弔うため、平山の人々により大正10年9月1日に建立されました。

大正8年8月4日、重油を満載してボルネオのタラカンを出港し、佐世保に向かっていた志自岐は、台湾沖から台風に巻き込まれました。難航を続け、ようやく種子島沖にさしかかりましたが、8月15日、竹崎の南の海に広がる鍋割りと源三郎の暗礁に座礁し、沈没してしまいました。志自岐は総トン数5,300トンで、艦長は海軍中佐石川庄一郎でした。

遭難の知らせを受けた平山の人々は、総出で昼夜を問わず懸命の捜索を続けましたが、その甲斐もなく、乗組員120人中、生存者はわずか7人、そして15人の遺体を収容しただけでした。当時は通信が不便だったため、佐世保鎮守府に何度も打電しましたが、戦艦肥前を始めとした救援隊が到着したのは3日後のことでした。こうした平山の人々の救助並びに遺体の収容等の労に対して、帝国軍人会から褒賞が贈られています。



特務艦「志自岐」遭難記念碑（広田遺跡公園内）